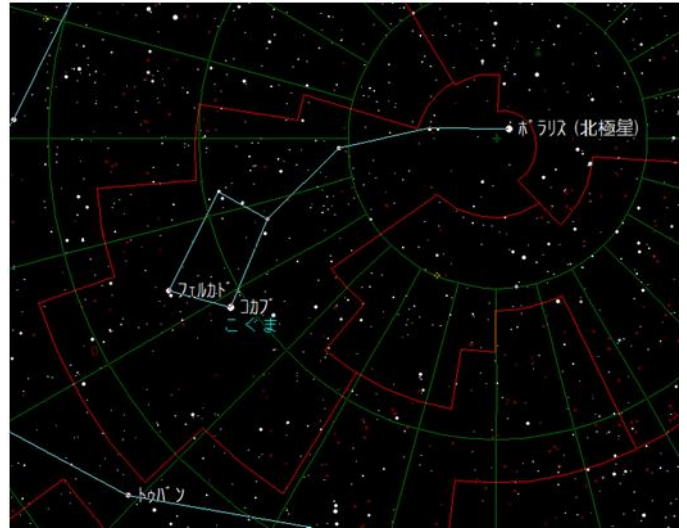


「こぐま座を観る・撮る」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

おおぐま座の一部である「北斗七星」はすぐに見つかる。一等星はないが、同じような明るさ恒星が、形よく並んでいるので、よく目立つのである。北斗七星は、一部の星を除いて、東京付近でも一年中地平線下に沈まない「周極星」である。ところが、その内側(北極星寄り)にある「こぐま座」は、なかなか形をとるのが難しい。北斗七星よりもずっとサイズが小さく、暗い星が多いからだろう。

こぐま座を探すポイントは、北極星である。北極星は恒星の固有名ではなく、「天の北極に一番近い輝星」という意味だ。現在は「こぐま座のポラリス」が「担当」している。北極星は、北斗七星やカシオペア座から簡単に探すことができる。その北極星が「こぐまの尾の先」に位置している。こぐま座は、別名「小柄杓(こびしゃく)」と呼ばれる通り、北斗七星と同じように7つの星で「柄杓」の形をしている。残念ながら4等星や5等星が多く、東京では観望は難しい。しかし、空の暗い場所で、一生懸命探してみしてほしい。



「こぐま座の星図」 北極星も天の北極からわずかにはずれているのがわかる。赤い線が星座境界線。緑の線は赤緯・赤経線。一年中沈まない周極星である。

(下)「こぐま座全景」 50mmの標準レンズでも全景が収まる、小さな星座だ。部屋を暗くして、星座の形を探してみしてほしい。(↑が北極星) / 北軽井沢

